

北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議（第 56 回）開催結果概要

1 日時

令和 4 年（2022 年）7 月 21 日（木）14 時 00 分から 16 時 40 分

2 場所

PCB 情報処理センター（室蘭市御崎町 1 丁目 9 番地 8）

3 出席者

- ・ 円卓会議委員 11 名、登別市、環境省、中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）、北海道立総合研究機構
- ・ 事務局（北海道、室蘭市）
- ・ 傍聴者 22 名、報道 5 社

4 議事概要

(1) 第 55 回監視円卓会議議事録について【資料 1】

- ・ 前回会議の議事録について確認。特に質疑なし。

(2) 前回監視円卓会議やその後寄せられた委員からの質問に対する回答等について【資料 2-1】

- ・ 北海道及び室蘭市から、前回の委員からのご意見やその後改めて文書で寄せられたご質問に対する考え方等について説明。

《主な質疑》

【A 委員】 質問・意見がたくさんあるので、4 時までには終わるのは問題だ。

→ 【座長】 回答のどこが不十分なのか明らかにしていただきたい。

【A 委員】 4 Bq/cm² がなぜ安全かということに一言も答えていない。環境省は自主的に決めたというが、それがどういうことかという話できていない。

【A 委員】 私が非常に詳しく書いたものを完全に無視しており、そういうやり方はないだろう。（質問に対し）「間違っていると、それはこうなのだ」という形ではない。

【A 委員】 表面線量率の測定、特にバックグラウンドの測定について答えがない。

【A 委員】 放射能は被曝量が年間 100 ミリシーベルト以上は駄目だと書いてあるが、なぜそういう表現になったのかが分からない。

【A 委員】 1 ミリシーベルトが安全とは国際放射線防護委員会では言っていない。

【A 委員】（こうした問題は）有効活用にもつながってくる。どんな処理をするかという PCB が終わった後との関係が絡んでくる。

→ 【座長】 整理して、次回にも回答いただくようにしたい。

【B 委員】 A 委員にもっときちんと時間を与えてほしい。

→【座長】 まだきちんとした答えを得られていないと思われている委員がいるということを確認することは大事。(意見の) 内容そのものは、委員の皆様も全員承知しているし、ご説明をお願いしなかった。

【B 委員】 (処理対象物について、搬入車両に) 積み込む前に、もう一度測るのか。

→【環境省】 実際に運び出すときに、容器 (コンテナ) 周囲の空間線量率を測定する。

【B 委員】 移動して (室蘭に) 着いたら、処理する前に測るのか。

→【環境省】 北海道の方でも到着したときに (コンテナ周囲の空間線量率を) 測定する。

【B 委員】 クリアランス (放射線管理区域からの物品の持ち出し基準) は、(放射性物質を放射線管理区域に) 密閉して外に放射能が漏れないことを条件としている。(仮置場や室蘭到着後など) 解放された状態でクリアランスの基準を準用するというのは準用とは言えない。

【B 委員】 放射能という問題に対する認識というのがどこまで正確に物事を考えているか、今の科学が到達している地点を理解しているかがすごく大事なこと。道とか市は、ほとんど環境省の文章をなぞっている以上のことを感じられない。話を伺いたい。

→【座長】 再度、質問を出していただき答えをいただくというプロセスをとりたい。

【C 委員】 PCB は揮発し漏れることもあるが、PCB と放射性物質が重なった場合、化学的な反応があるのか。

→【D 委員】 放射性物質と PCB 自体が化学反応を起こしてというのは考えにくい。

【C 委員】 海外でも相当程度原発の事故があり、そこでもおそらく PCB はあったのではないかと想像するが、海外では原発事故により汚染された PCB についてどんな基準をもっているのか。

→【環境省】 情報収集は行っているが、現時点では類似事例はない。

・座長から「再度の質問については、改めて整理して回答をいただくこととし、次の議題に時間を取りたい」との提案があり、各委員からの意見を聞いた上で、次の議事に進んだ。

《主な質疑》

【A 委員】 4 Bq/cm² の問題などが答えられていないのに、それで処分するということか。

→【座長】 (処理を認めるという) 意思決定は、室蘭市長及び北海道知事がそれぞれの議会で意見を表明され、そこで了解をされている。(処理の) プロセスであったり、立会・調査の件を大事にして監視したいがどうか。

→【A 委員】 (施設の) 有効活用の問題があるし、恐ろしくて「はい」とは言えない。

【C 委員】環境省から要請があり、北海道知事並びに室蘭市長が判断をした。疑問がないわけではないが、そういった中で判断されたことについて、私どもも受け止めなければならない。できればであるが、場合によっては、環境省の責任者から、道民や市民に対してメッセージをいただければやりやすい。

【B 委員】(放射性物質汚染対処特措法の対策地域の指定については) 手続的にいけば、本来、環境大臣が正式に北海道知事に要請する。そういうけじめが今回の問題ではついていない。

【B 委員】(昨年の現地調査について) 経過が一切記録に残っていない。この地域に住んでいる人間として、我々の自治を本当に正しくやられているかどうかという問題は、しっかりと事実確認する必要がある。

【B 委員】大きな矛盾は、道が主導して調査したにもかかわらず、最初に受入れ表明したのが室蘭市長であったこと。この辺の問題はもっと定かにやっていかなければならない。それまで我々は納得がいかない。

【D 委員】(4Bq/cm²の件については) 背景のバックグラウンドの値が高いので、そこで測ると高いが、持ってきてこちらで測ったら全然低いレベルかもしれない。私たちが受け入れている普通の北海道内のPCB廃棄物と同じようなレベルで、置いてある環境がたまたま放射能のレベルが高いという印象。

【D 委員】(PCB が) 環境中にもれてしまうと、結局、私たちが一番影響を受ける。PCB 廃棄物を早く処理する必要がある。一定の議論はするけれども、受入れはする。きちんとしたモニタリングをして、皆さんがご懸念されている点をうまく解消できるようにする。それが一番いい方法ではないか。

【E 委員】円卓会議そのものが、多様な意見を出すところであって、意思決定機関ではない。

【E 委員】福島県の人たちの身になって考えるということが第一であり、そういった部分に室蘭の技術で貢献する、それをまず第一に考えていただきたい。その上で、安心・安全に室蘭で処理をするということが大切ではないか。

(3) 福島県対策地域内の高濃度 PCB 廃棄物の処理について

ア プロセスの確認について【資料 2-2】

- ・環境省から、福島県対策地域内の高濃度 PCB 廃棄物の処理について説明。

《主な質疑》

【F 委員】(表面汚染密度を測定する) GM サーベイメータは何台用意するのか。
→【環境省】計 2 台(1 台は予備)。空間線量率の測定機器についても同様。

【A 委員】機器から発生する放射線の量（表面汚染密度）を計測しているが、周辺の空間の放射線の量も計測されているとある。これは何%ぐらい計測されているのか。

→【環境省】何%周辺の放射線量を拾っているかというのは測定していない。

【B 委員】1週間ほど前に（搬入は）8月〇日といった報道があった。円卓会議というのが市民の意見の場として尊重されていない気がする。

【B 委員】（室蘭に）運ばれたPCB類については、ちゃんと区別された場所に保管されて安全に管理できる状態になっているのか。

→【環境省】福島県からお持ちするものについては、ほかの地域のものを処理していない期間に福島のものだけを処理していただく。

→【JESCO】（今回の処理対象物の）処理をする前に、その処理に使用する設備は空にする。処理により得られたものは、そのみの状態として（保管し）それを払い出す。

→【B 委員】（現場の方が）線量計をつけるということは、漏れることを前提にしている。漏れないのだったら線量計をつける必要はない。今の回答であれば、十分にディスカッションして行程が組まれているという回答にはならないと思う。

【B 委員】安定器が1,515台とあるが、汚染物を除くと数値が合わないのではないのか。

→【環境省】コンデンサー32台と安定器・汚染物等が1,515台で1,547台である。

【座長】モニタリングの頻度はどのくらいか。また、公表のタイミングは。

→【環境省】空間線量率については、1日3回、朝昼夕という形で測定する。排ガスの放射能については、実際に処理をしている排気が出ているときに1日1回、おおむね4時間かけて測定する。（空間線量率の）公表は、1日から2日後で調整している。

→【座長】できるだけ即時的に公表するよう努力いただきたい。

【B 委員】事故や異常が発生した場合の対応計画を事前に策定するとあったが、これは策定されているのか。

→【環境省】策定し、前回円卓会議でお示ししている。

イ 北海道及び室蘭市が行う立会・調査等について【資料2-3】

・北海道から、北海道及び室蘭市が行う立会・調査等について説明。

《主な質疑》

【D 委員】（室蘭での表面汚染密度の測定について）サンプル測定はどのくらいの数をされる予定なのか。

→【環境省】コンデンサーについてはすべて。安定器については、サンプル的に約1%程度（十数台）の予定。

→【D 委員】こちらで測ったらこうだったというデータは早い段階で出していただくのがよい。また、測定にあたっては、最大値のようなものを有意的にとることも検討いただきたい。

→【座長】市民の方に分かるように、環境省のデータ、道が測ったデータという形で、速報値を迅速に公開いただきたい。

【C 委員】（道の）処理状況に係る立入検査の時に、有識者という立場で吉田先生にも（立会を）お願いしたい。

【B 委員】（受入時の立会について）円卓会議の委員もと言っているが、「はい」とは言い切れない。安全を考えて、現場を考えて、ありとあらゆることを考えた上でやっているのかというのは非常に不安。

→【D 委員】PCB 処理情報センターに円卓会議の委員がいて、代表が現地の状況を見て、それを（映像で）見ていただくことはできるのではないかと。事務局に検討していただきたい。

【B 委員】今回の計画についてはもう一度見直してほしい。改めて検討してほしい。